

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	3年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①従来の学科の教育課程を適切に進行管理するとともに、新学科の策定した教育課程を円滑に推進する。</p> <p>②国際科・理数科を引き継いで普通科において外国語や理数教育を重視した教育を行い、生徒の一層の学力向上を図る。</p> <p>③外国につながる生徒の受け入れ・支援体制を整備する。</p>	<p>①及び②アクティブ・ラーニングの視点に立った授業を全ての教科・教員で取り組む。</p> <p>③平成30年度入学者選抜から実施する在県外国人等特別募集の準備を着実に実施する。</p>	<p>①及び②全ての教員が1回は生徒の主体的・対話的で深い学びを進める授業やICTを活用した授業に取り組むことをめざす。</p> <p>③既に在県外国人等特別募集を実施している高等学校から情報を収集し、制度を構築する。</p>	<p>①及び②生徒による授業評価の項目1における「4かなり当てはまる」の回答率5割以上となったか。</p> <p>③円滑に在県外国人等特別募集を実施することができたか。</p>	<p>①及び②多くの教員が生徒の主体的・対話的で深い学びを進める授業やICTを活用した授業に取り組んだ。保健体育、芸術2教科以外の座学が中心の科目において目標が達成できなかった。評価4,3を合わせると全教科75%以上達成した。</p> <p>③橋本高校、相模向陽館高校、相模原青陵高等学校の授業見学や、CEMLA研究会での情報収集を参考にし、円滑に在県外国人等特別募集を実施することができた。</p>	<p>①及び②生徒が主体的に取り組み、「思考力・判断力・表現力」等の向上につながる授業作りをめざす。</p> <p>③平成30年度からのCEMLA事業の相模原青陵高校との協働運営にあたり、適切な準備と円滑な遂行をめざす。外国につながる生徒の受け入れ・支援体制をさらに整備していく。</p>	<p>①アクティブ・ラーニングを全科目で取り組んだとあるが、科目による違いもあるのではないかと。授業の組み立てなどについて、職員間で具体的な方向性を時間をとって、連携してほしい。</p> <p>②教育の方向性が変化している中で教員側が変わろうとしていないのではないかと。</p> <p>③個別対応授業だけでなく、外国につながる生徒が他の生徒達と接することも考慮してほしい。</p>	<p>①16教室にプロジェクトを設置し、ICT活用が進んだ。アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善の取り組みを全教科で行った。</p> <p>ICTを効果的に用いる方法や主体的・対話的で深い学びのための授業作りは、より多くの教員が積極的に取り組む必要がある。</p> <p>②生徒・保護者の期待や希望の分析と、本校で身に付けてもらいたい学力をわかりやすく伝える努力が必要であった。</p> <p>③視察や会議等で情報を収集し、校内研修会等で職員の意識啓発と適正な入学者選抜を行うことができた。入学後の生徒対応やCEMLA事業について、引き続き検討が必要である。</p>	<p>①具体的なICT活用や授業改善の取り組みの共有と研究を進める。ICT機器をより使いやすく整備する。</p> <p>②理数科及び国際科の行事や授業の取り組みを精査し、普通科に導入する。</p> <p>③在県外国人等特別募集第1期入学者への指導について、全職員で情報共有と研究を行う。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①部活動加入者の向上と生徒会活動の活性化を図り、豊かな人間性と社会性の涵養を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりに対してきめ細やかな支援や指導を行い、心身の健全な育成をめざす。</p>	<p>①部活動や学校行事・委員会活動への積極的参加を促し、個々の生徒が充実して高校生活を送れるよう取り組む。</p> <p>②多様な生徒によりきめ細かく対応するために、スクールカウンセラー(以下SC)、スクールソーシャルワーカー(以下SSW)を有効活用する。また、職員の情報共有、理解の共有を図る。</p>	<p>①部活動や学校行事・委員会活動等における生徒の自主的・自立的運営を促すとともに、新入生オリエンテーションを充実させる。</p> <p>②SSWの活用方法の周知を含め、SCやSSWの有効活用をするためのシステムを構築する。ケース会議から専門機関への連携をよりスムーズに、わかりやすくする。</p>	<p>①部活動加入率の向上が図れたか。</p> <p>②SCやSSWの周知と有効活用ができたか。ケース会議の開催が、生徒の問題解消にどのように役立ったか、また、専門機関との連携をどのように実施し効果をあげたか。</p>	<p>①部活動加入率ではサイエンス部員が急減したため文化系部活動加入率が約7%減少し、運動部は昨年度とほぼ変化がなかった。</p> <p>②SSWの活動内容と活用について、教職員向けの研修会を行った。またケース会議を随時開催し、情報を共有するとともに必要に応じて専門機関との連携を実施した。</p>	<p>①部活動の活性化に向けて努力を続ける。</p> <p>②情報の共有だけでなく、SC、SSWの活用や専門機関との連携によって生徒の問題解消につながるよう細部にわたる支援を構築する。</p>	<p>①部活動が盛んで素晴らしいが、部活動の休みが週に1,2日とれているのか。</p> <p>②自転車による事故が多く、加害者になった時のことや保険加入促進について対応してほしい。外国につながる生徒には日本の交通ルール・マナーの指導をしてほしい。</p> <p>外国につながる生徒に対するいじめ等が起きないように、見えない所までの配慮が必要である。</p>	<p>①部活動や学科行事等の生徒の活動への支援を全職員で行えたが、生徒・職員の休日状況の把握と検証は十分ではなかった。</p> <p>②交通ルールやマナーの指導を保護者や地域の自治体と協力して実施できたが、自転車の事故発生やマナー違反は多い状況が続いている。</p> <p>SSWに関する研修会により、SCやSSWの活用等について理解が進んだ。</p>	<p>①普通科生徒の部活動加入率の向上に取り組むとともに、休養日の設定について、グループ・顧問会議等で検討する。</p> <p>②相模原市の新条例の周知、生徒・保護者への交通安全指導、校外巡視等を行う。</p> <p>平成30年度からのSC拠点校変更に円滑に対応する。</p> <p>教育相談体制の見直しを実施する。</p>

3	進路指導・支援	<p>①各学科の特色ある教育を基に、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばし、国公立・難関私立大学への進学をめざす。</p> <p>②特に専門学科においては、専門課程にふさわしいキャリア教育により支援していく。</p>	<p>①生徒個々の進路希望の実現をめざし、進学指導の充実を図る。</p> <p>②各年次・学科ごとのキャリア教育プログラムを実践するとともに、検証する。</p>	<p>①生徒の希望に基づき、模擬試験等のデータなどを分析・活用することにより、センター試験・一般受験による進路実現の増加をめざす。</p> <p>②2、3年次の学科ごとのキャリア教育プログラムによる支援を進めるとともに、1年次の学科再編に合わせたキャリア教育プログラムを実施する。</p>	<p>①全学科において、センター・一般入試における受験決定率が平成28年度より増加したか。</p> <p>②各年次のキャリア教育プログラムの検証を行い、成果と反省点についてグループ・年次間で共有し、改善を進めることができたか。</p>	<p>①全体のセンター受験率は59%から52%に減少。受験決定率は今後の合格状況による。</p> <p>②普通科1年次のキャリア教育プログラムを中心に検討した。労働法の講義、新しいガイダンス等も取り入れた。</p>	<p>①一般受験は経済的な負担が大きく、推薦に流れている現状にある。進学を目的を明確に持たせるように指導を徹底する。</p> <p>②入試改革に関連して、探究活動の内容を今後検討する必要がある。普通科のキャリア教育プログラムについて今後も検討を継続する。</p>	<p>①入試の内容の変化への対応をどのようにしているのか、わかりづらい。</p>	<p>①大学の定員抑制の影響で、3月末まで進路が確定しない卒業生が例年より多かったが、3月も十分な指導や対応を行えた。</p> <p>今後の入試改革対応の準備の継続と生徒・保護者へのわかりやすい情報提供が必要である。</p> <p>②普通科1年次の指導について工夫や検討を行えたが、その検証と卒業後までを見据えたキャリアプログラムの検討は、今後も必要である。</p>	<p>①入試改革に関する情報発信をこれまでより多く教員・生徒・保護者に行うとともに、総合的な学習やLHR・面接等での指導を行う。</p> <p>②育てたい生徒像の確立のための協議、普通科1期生1年次の取り組みの検証と総括を行い、キャリア教育プログラムの検討を続ける。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域の小・中学校・大学や教育機関等とより一層の連携を図る。</p> <p>②地域との協働を推進し、地域に愛され、信頼される学校づくりを行う。</p>	<p>①本校の特色を活かした、小・中学校・大学等との連携を実施する。</p> <p>②清掃活動やふれあいコンサート等のイベントへの参加を通じた地域貢献活動に取り組む。</p>	<p>①弥栄トリニティや各種行事、部活動などにより、積極的な連携を行う。</p> <p>②地域清掃やふれあいコンサートを実施する。</p>	<p>①学科や部活動などの特色を活かした連携を実施し、地域貢献ができたか。</p> <p>②地域清掃やふれあいコンサート等地域のイベントに積極的に参加し、社会意識を高めることができたか。</p>	<p>①弥栄トリニティでは弥栄中学校2学年生徒全員が本校の体験授業に参加した。また近隣小学校の陸上記録会の計測員としてスポーツ科学科生徒が参加するなど、小中高相互の積極的な連携活動ができた。</p> <p>②吹奏楽部・合唱部・軽音楽部・美術部等文化部の多くが多方面のイベントに参加し、その意識や成果は学校生活にも良い影響を与えている。</p>	<p>①現在行っている活動を継続するとともに、より多くの生徒が地域と関わり社会意識の向上が図れる活動を模索していく。</p> <p>②地域により一層必要とされる時期・場所での清掃を検討する。</p>	<p>①②地域の小・中学校との交流を進めているのは大変よい。今後も継続してほしい。</p>	<p>①②弥栄トリニティは好評で、今後も継続予定である。</p> <p>小学校との連携は単発であり、大学との連携は学科により偏りがある。</p> <p>②文化部を中心として地域との交流を多く行えた。地域清掃は学校周辺の比較的清潔な場所である。地域から望まれる交流や清掃場所等を検討する必要がある。</p>	<p>①弥栄トリニティについてはこれまで国際科・理数科が実施していた講座の存続・変更について検討する。</p> <p>小学校、大学との新しい連携の導入を検討する。</p> <p>②地域の自治会・公民館等と情報交換を行い、地域に望まれる交流の継続と新規活動導入をめざす。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①緊急時に対応できる防災教育・安全教育を学校全体で推進する。</p> <p>②職員の資質の向上に常に努め、事故・不祥事防止に繋げる。</p>	<p>①学校の防災対策全体の再点検を行うとともに、生徒の防災スキルの向上を図る。</p>	<p>①防災マニュアルの完成度を上げ、防災訓練を充実したものにす。また、生徒対象の災害図上訓練(DIG)を実施する。</p>	<p>①防災マニュアルがより使いやすいものになったか。</p> <p>①様々な状況に対応するため生徒が主体的に関わる防災訓練が行えたか。</p>	<p>①防災マニュアルを簡略化しより見やすいものにした。また、火山災害への対応などを増補版として付け加えた。</p> <p>①6月の防災訓練では生徒が主体的に関わる要素を取り入れて実施した。生徒対象の災害図上訓練(DIG)を実施した。</p>	<p>①生徒及び職員の防災意識の更なる向上に向けた対策を検討していく。</p>	<p>①今後は火山災害対策の整備も必要ではないか。</p>	<p>①防災マニュアルの改善や生徒が主体的に関わる防災訓練を実施できた。校内設備や物品の安全対策の検証が必要である。</p> <p>②教員免許の更新手続きに不備があり、生徒・保護者の信頼を損ねた。免許更新その他手続きや業務における事故・不祥事の防止に徹底して取り組む必要がある。</p>	<p>①生徒の主体的な防災訓練を継続する。オープンスペースや実習教室等の物品・設備の安全状況を再点検し、必要な改善を図る。</p> <p>②教員免許更新手続きの早めの指示と確認を徹底する。各種業務のマニュアルや指示をわかりやすく改訂する。事故防止会議・研修を適宜実施する。</p>